

イベントレポート 『2009 GT耐久東海シリーズ 選抜戦』 6時間耐久

開催日 2009年12月6日(日)

10:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 13.2 (13時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 31台

2009年12月6日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2009K耐久/GT耐久東海シリーズの最終戦となる選抜戦が行われた。

ここ数日天候がめまぐるしく変わり、前日は強い雨に見舞われた東海地区だが、イベント当日は朝から快晴となり絶好のレース日和となった。

今回の選抜戦は第4戦までのシリーズポイント上位チームから優先的に出場権が得られるもので、軽自動車と普通車が混走となる。シーズンを通して激しい戦いを繰り広げてきた猛者31台が、選抜戦の名にふさわしい熱い戦いを繰り広げた。



2Cクラス

第4戦までのシリーズ上位4台のエントリーとなったこのクラス。前戦終了時点での1位 No.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」が62点、2位 No.3「メタルクラフトRTスターレット」が56点、3位 No.35「SHRシビック」が55点と、ここまでが優勝の可能性を残している。毎回優勝者が変わってきたこのクラス、果たしてシリーズ優勝を勝ち取るのはどのチームか？



予選

予選1番時計を叩き出したのは No.35「SHRシビック」で、タイムは1'03.002をマーク。ここからわずか0.35秒差の2位には、No.3「メタルクラフトRTスターレット」が入る。また3位のNo.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」も、1'03.906と、上位3台が3秒台の争いを見せる。4位にはNo.108「丸和Racing EP-82」が1'07.931で入る。



序盤

スタート後30分を経過した時点で、No.3「メタルクラフトRTスターレット」、No.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」、No.35「SHRシビック」の3台が数秒差で連なって走行。

この僅差の争いは1回目のピットインを終えた後の、1.5時間を経過した時点でも続き、No.3「メタルクラフトRTスターレット」、No.35「SHRシビック」、No.13「MMS藤井ケン岸本RSカルタス」の順で連なって走行。当然3台とも同一の55LAPであるが、1位から3位までのタイム差は何とわずか10秒という大混戦。

No.108「丸和Racing EP-82」は序盤にマシンリペアのためピット時間を要し、1.5時間経過時点で38周と出遅れてしまう。



中盤

三つ巴の争いはレース中盤の 3 時間経過時点でもなおも続く。3 時間経過時点での順位は、1 位 No.35「SHRシビック」、2 位 No.3「メタルクラフトRTスターレット」、3 位 No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」となるが、相変わらずの同一周回で 118 周をLAP。この争いは果たしてどこまで続くのか・・・。

続く 4 位にはリペア後は復調した No.108「丸和Racing EP - 82」が 99Lap で続く。



終盤

レースも終盤 5 時間が経過すると、じわりと差がついてくる。この時点での 1 位は No.3「メタルクラフトRTスターレット」で 233 周をラップ。2 位の No.35「SHRシビック」は 228 周で、1 回のピット回数の差を差し引いても、約 1 週の遅れを取っている計算に。また 3 位の No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」は 5 時間時点でちょうどピットインしていたものの、224 周のLAP となり少し水を開けられる。4 位の No.108「丸和Racing EP - 82」も 202 周を走っており、上位に何かあれば順位が十分に入れ替わるポジションに付ける。



最終結果

終始 3 台による接戦を繰り広げたこのクラス、最終的にトップでチェッカーを受けたのは No.3「メタルクラフトRTスターレット」であった。267 周を走りきり、総合でも 3 位に入る健闘を見せた。

2 位には中盤では一時トップに立っていた No.35「SHRシビック」がトップと 3 周差の 264Lap で入った。

3 位は No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」で 262 周をラップしたが、あと一步届かなかった。

また No.108「丸和Racing EP - 82」も 235 周を無事走りきり、見事 4 位のポイントをGETした。



シリーズ結果

第 4 戦を終えて 1 位の No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」は、2 位の No.3「メタルクラフトRTスターレット」に 6 ポイントの差を付けていたため、選抜戦で 1 位か 2 位になればシリーズ優勝を決定できた。

しかし今回、No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」が 3 位となり、No.3「メタルクラフトRTスターレット」が 1 位となったため、土壇場での逆転劇となった。

最終的にシリーズ優勝は 76 点の No.3「メタルクラフトRTスターレット」、2 位は 74 点の No.13「MMS 藤井ケン岸本RSカルタス」、3 位は 70 点の No.35「SHRシビック」というオーダーとなった。

4 位には 41 ポイントで No.108「丸和Racing EP - 82」が続いた。



3 Cクラス

第4戦までのシリーズ上位チームが欠席となり、シリーズ4位のNo.96「KRS制動屋RUSHレビン」、7位のNo.30「チームMMRCミラージュKRS」、11位のNo.106「グルッペD&Mブジョー106」の3台のエントリーとなったこのクラス。今回完走すれば大きなポイントを実際の得ることが出来るため、参加の各チームは一気にシリーズポジションのアップが狙える1戦となった。

予選

予選1位となったのはNo.106「グルッペD&Mブジョー106」でタイムは1 04.384をマーク。第4戦からの参加であるためシリーズポイントは11位となっているが、初参加でいきなり4位に入賞した実績を持つ。

予選2位はNo.30「チームMMRCミラージュKRS」でタイムは1 05.628。このチームはマシントラブルなどに泣かされてポイントが伸び悩んだものの、安定した速さを持っている。

予選3位はNo.96「KRS制動屋RUSHレビン」。電気系のトラブルが発生し、何とか予選を走りきったものの、タイムは1'37.119と厳しいスタートになる。

序盤

レース序盤はNo.106「グルッペD&Mブジョー106」とNo.30「チームMMRCミラージュKRS」が互角の争いを繰り広げていたが、決勝開始から1時間20分を過ぎた時点で、No.30「チームMMRCミラージュKRS」が1コーナーでコースアウトして赤旗中断に。

これで一気にNo.106「グルッペD&Mブジョー106」が優位に立ったかと思いきや、赤旗解除後のレース再開直後に、今度はNo.106「グルッペD&Mブジョー106」がコースアウトして、レッカーされることに…。

また、No.96「KRS制動屋RUSHレビン」は相変わらず電気系トラブルが解消せず、ペースが上がらない厳しい状況が続く。

中盤

序盤に仲良く1回ずつのコースアウト&レッカーを喫したNo.30「チームMMRCミラージュKRS」とNo.106「グルッペD&Mブジョー106」であるが、3時間を経過した時点では共に102周を周回し、タイム差はわずか1秒という接近戦。

No.96「KRS制動屋RUSHレビン」は除々にペースが上がってくるが、80周と上位2台からは離される。

終盤

レースも4時間半が経過した時点では、No.106「グルッペD&Mブジョー106」が181周で、No.30「チームMMRCミラージュKRS」が180周と引き続き僅差の争いを繰り広げる。このあと1時間ほど経過しても、1周差を保ったまま、レース終了が近づいてくる…。

またNo.96「KRS制動屋RUSHレビン」は完全に調子を取り戻し、7秒台を出すまでにペースアップするが、序盤の不調が大きく響き、上位のチームとは30Lapほどの差を開けられてしまう。



最終結果

2台のマシンが接近戦を繰り広げていたこのクラス。最終的にトップでチェッカーを受けたのは 243Lap を周回した No.106「グルッペD & Mプジョー106」であった。

惜しくも 2 位となったのは No.30「チームMMRCミラージュKRS」で、ラップ数は 241 周であった。

またマシントラブルで苦戦した No.96「KRS制動屋RUSHレビン」であったが、残り 5 分の段階でグラベルにハマり、コースアウトのままレース終了を迎える形になった。しかし、204 周を周回していたため規定周回数はクリアしており、3 位完走の結果となり 12 ポイントを獲得した。



シリーズ結果

今回不参加であったが開幕 4 連勝の No.110「アライメント浜松 ロードスター」が、80 点の断トツでシリーズ優勝を飾った。

2 位も今回欠席の No.81「ソーワエンジニアリングシビック」が 42 点のポイントで逃げ切る形に。

3 位には今回獲得の 12 ポイントで大きくジャンプアップした No.96「KRS制動屋RUSHレビン」が入った。

また、このクラスはエントリー台数が多かったためにシリーズ 4 位までが表彰対象となったが、その 4 位に入ったのは今回優勝を飾った No.106「グルッペD & Mプジョー106」。今回獲得の 20 点が大きく効いて、前回までのシリーズ 11 位から一気に 7 つポジションUPし、見事シリーズトロフィー獲得となった。



3C クラス シリーズ 1 位、3 位、4 位

30クラス

このクラスは第 4 戦まででシリーズ 1 位の No.83「RTカーライフ名古屋」チームが既にシリーズ優勝を決めているが今回は欠席。

ポイント 32 点でシリーズ 2 位の No.93「SDC92 今度は5バルブレビン」と、25 点でシリーズ 3 位の No.19「YADOKARIシビック」は共にエントリーし、シリーズ 2 位を懸けての争いに。

またシリーズ 6 位の No.18「T - BODYレラティブシビック」もエントリーし、このクラスは 3 台での戦いとなった。



予選

予選 1 位となったのは、No.18「T - BODYレラティブシビック」。タイムはオーバーオールとなる 1'01.567 をマークして堂々のポールポジションを獲得。

予選 2 番手は No.19「YADOKARIシビック」で、タイムは 1'03.438。3 位の No.93「SDC92 今度は5バルブレビン」も 1'04.176 でピタリと後に付ける。



序盤

序盤から No.18「T - BODYレラティブシビック」は快調なペースで飛ばし、じわじわとマージンを築いていく。

一方 No.19「YADOKARIシビック」は序盤からコースアウトや接触などがあり、大きくタイムロスをしてしまう。

No.93「SDC92 今度は5バルブレピン」は快調なペースで走行しNo.18 の背中が見えていたが、40 分過ぎに痛恨のコースアウト&レッカーとなり、一気にポジションダウンしてしまう。

中盤

レースが 3 時間を経過しても、No.18「T - BODYレラティブシビック」は順調に周回を重ねていく。レースが半分を消化した時点で、120LAP を記録する。

また 2 番手の No.19「YADOKARIシビック」は中盤は順調に周回を重ね、3 時間経過時点で 113 周をラップ。レースはまだ半分が残っており、後半戦に望みをつなぐ。

3 位の No.93「SDC92 今度は5バルブレピン」はコースアウトが大きく響き 83 周に留まるが、最終的に 1 位の 70%以上の周回を記録すれば完走認定されてポイントが獲得できるため、こちらも後半のがんばりが必須に。

終盤

5 時間が経過した時点でのトップも依然 No.18「T - BODYレラティブシビック」で、232 周を周回。

2 位の No.19「YADOKARIシビック」は 10 週の遅れを取っているが 10 周差は中盤から変わっておらず、1 位に迫るペースで周回を続けている。

3 位の No.93「SDC92 今度は5バルブレピン」は 186 周を走り、このペースで行くと 3 位完走が認定されそうであったが、5 時間を経過した直後のピットアウト時にホワイトラインカットを犯してしまい、ペナルティーボードを提示されてしまう。しかしこのペナルティーを 3 周以内に履行することが出来ず、痛恨の失格となってしまった。

最終結果

ポールスタートの No.18「T - BODYレラティブシビック」がトップの座を一度も譲ることなく、1 位でチェッカーを受けた。周回数は 269 周であった。

2 位には 255 周を走りきった No.19「YADOKARIシビック」が入り、大きなポイントを獲得した。

No.93「SDC92 今度は5バルブレピン」は前述の通り失格となってしまったため、順位が認定されずにポイントの獲得が出来なかった。

シリーズ結果

今回は欠席となったが、No.83「RT カーライフ名古屋」チームが前回までのポイント 55 点でシリーズ優勝を飾った。

シリーズ 2 位と 3 位は何と 40 点の同一ポイント。しかし規定により上位得点の回数が多かった No.18「T - BODYレラティブシビック」がシリーズ 2 位の座を射止めた。

またシリーズ 3 位には最終戦で 15 ポイントを獲得した No.19「YADOKARIシビック」が入った。

